



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

昨年は異常気象の夏でしたが、今年も7月の猛暑に引き続き、全国各地で台風や集中豪雨、さらに地震により多くの方が被災しました。お見舞い申し上げますとともに一日も早く日常生活が戻ることをお祈り申し上げます。



夏の恒例の全歯体(第50回)は、神奈川歯科大学の事務主管で夏期部門24種目が全国の会場で開催されました。本学は一昨年、昨年と順調に総合成績をあげてきましたが、今回の総合成績は29大学中7位(昨年は8位)で、歯学部創設以来最高の成績でした。本学は14種目に出場し、サッカーと卓球で昨年に引き続き部門優勝を成し遂げたほか、陸上、剣道、弓道、水泳、バドミントン、バレーボールおよびゴルフで得点を挙げ、総得点87.29点でした。個人戦でも剣道部の菊池繁仁君が個人優勝したほか、多くの学生が入賞しました。菊池君の実家は西日本豪雨で被災しましたが、菊池君の活躍が地元を勇気づけたと愛媛新聞で大きく取り上げられました。学生の健闘を祝福したいと思います。また、全国の大学から学生代表が一同に集まり研究成果を競うスチューデントクリニシャンプログラムが、8月24日に日本歯科医師会館で開催され、本学代表の西田訓子さん(D5)が基礎部門で準優勝しました。

国際交流においては、医学部が毎年派遣している米国UCLAのサマーセッションに今年は初めて歯学部から下窪真子(D3)さんが参加し、世界各国からの学生と5週間の研修を受け、大いに刺激を受けて帰国しました。これまで医学部からは2年生が参加していましたが、歯学部学生はカリキュラムの兼ね合いで参加できませんでした。今回講義関係者のご配慮で参加できるようになりました。

恒例の1年生対象の米国ポートランド州立大学サマープログラム(4週間)には4学部から総勢31名が参加し、歯学部から8名が参加しました。多くの体験を深めて無事に帰国しました。

こちらも恒例になった APDSA(アジア太平洋歯学生会議)は、今回マレーシアで開催され、本学からは5名が参加し、植田紫衣生さん(D4)、千田裕美子さ

ん(D3)、十河美里さん(D3)が発表し、アジア諸国の学生と交流を深めてきました。

現在、マダガスカル口唇口蓋裂医療協力が家泉裕香さん(D5)が参加しています。

本学学生が正規のカリキュラムだけでなく、課外活動や選択実習等で、幅広く経験を深めてたくましく成長することを期待しています。

歯学部オープンキャンパスが開催されました

入学支援課 鳥山 ちひろ

平成30年8月11日(土・祝)洗足キャンパス(歯科病院)にて歯学部オープンキャンパスが開催されました。当日は、午前と午後の2回開催で合計112組209名参加し、昨年度合計102組204名を上回りました。会場となった第2臨床講堂では宮崎歯学部長から開会のご挨拶から始まり、富士吉田教育部金丸教授による「富士吉田での学生生活」、口腔生理学井上教授による「歯学部教育の特色・平成31年度歯学部入学試験・卒業後の進路」についての全体説明会が行われました。その後、6グループに分かれ歯周病科、インプラント歯科、顎顔面口腔外科への外来施設見学や総合診療歯科による口腔内治療体験実習が実施されました。また、希望者には入試担当教員が個別面談を行い、参加者からは、「富士吉田キャンパスや施設の様子が良く分かり、ぜひ入学して勉強したいと思いました。」、「体験実習を体験したことにより、さらに歯科医師になりたいと思いました。合格に向けて、勉強を頑張ります。」との声が寄せられ、大変好評のうちに終了しました。

また、9月15日(土)に入試説明会(旗の台キャンパス)、11月18日(日)に富士吉田校舎オープンキャンパスを開催します。



歯学部入試説明会が開催されました

入学支援課 中村 武彦

平成30年9月15日、旗の台キャンパスにおきまして、駿台予備校の講師の方々を迎えて、平成31年度入試に向けた歯学部、薬学部合同の説明会が開催されました。当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、本学への入学を希望される87組128名の学生、保護者の方々にご参加頂きました。

説明会は、歯科薬理学高見教授による本学入試概要説明に始まり、駿台予備校講師による歯学部入試科目の「英語」、「数学」、「化学」、「生物」、「物理」に関する傾向と対策についての講義が行われました。また、併せて歯学部教員による個別相談も行われました。将来、歯科医師、薬剤師を目指す受講者の方々からは、大変有意義な説明会であったとのご意見を多数寄せられ、大変好評なうちに説明会は終了致しました。今後は、11月18日(日)富士吉田校舎で開催されますオープンキャンパスに向け、多数の方々にご参加頂けるよう準備を進めて参ります。

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団 結団式が行われました

歯学部長 宮崎 隆

平成30年度昭和大学マダガスカル口唇口蓋裂医療協力団結団式が、去る8月29日(月)午後6時半から、1号館5階会議室で、大勢のご来賓の参列のもと、厳粛に開催されました。早いもので今年8回目の派遣になります。

校歌斉唱に引き続き、小口理事長から本事業を通じて本学が世界に貢献できることに感謝するとともに、医療の原点に戻って学生も視野を拓けるようにとの挨拶がありました。引き続き小出学長から初回の派遣実績から比較して年々本事業が充実してきたことをふまえて、今年も貢献するようとの挨拶がありました。笹川記念保健協力財団の喜多会長からは、ご自身のWHOでの国際活動の経験を紹介され、マダガスカルにおける口蓋裂治療はメディカルケアとして短期間で成果がでているので注目されていると参加者への期待が述べられました。本事業の発起人であられる曾野綾子様からは、アフリカは偉大な教師であり、特に学生がこの事業を通じて人間を学ぶようにとの激励の挨拶がありました。駐日マダガスカル大使館アタッシェ Rosette Rasoamanarivo 様からは本学に対する感謝と今後の両国の友好関係をますます発展させたいとの挨拶を頂戴しました。団長の土佐泰祥先生から現地の子供の笑顔を取り戻したいと力強い挨拶とメンバーの紹介がありました。昨年同様に形成外科医師、麻酔科医師、歯科医師、看護師、学生、事務職員に加えて、山本晋也監督も派遣団に加わり、総勢16名となりました。看護師の石井さんは学生時

代にも参加しました。歯学部関係者は、中納治久准教授、5年生の家泉裕香さんです。参加者全員で昭和大学宣言を宣言して式典を終了しました。会場を1号館地下1階の第2学生ホールに移し、各派遣メンバーの所属長も交えて懇親会を開催しました。参加者が体調管理に気をつけて成果をあげて無事に帰国することを祈念いたします。



昭和大学教育者のためのワークショップ (アドバンスコース)に参加しました

口腔生化学講座 上條 竜太郎

8月9、10日に神奈川県三浦郡葉山町のレクターレ葉山湘南国際村において平成30年度昭和大学教育者のためのワークショップが開催されました。医学・歯学・薬学・保健医療学部、そして富士吉田教育部の教育職員が5グループに分かれて作業を進めました。私が参加した



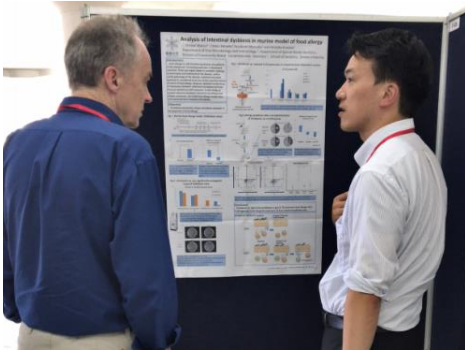
学部混成グループのテーマは「富士吉田教育部の教育」で、2年次以降の各学部の講義と富士吉田教育部の講義の再配置、新規科目の検討等を通じて、コンピテンシーに合致し、在学期間を通じたシームレスな教育体制の構築を目指すものでした。討議の冒頭、各学部の2年次以降の専門教育と富士吉田教育部での講義内容について情報交換を行いました。それに基づき、低学年専門科目の1年次移行の可能性、新規専門科目の開講、英語教育の充実などについての意見交換を行いました。その結果、現在富士吉田で開講されている学部横断型科目の一部を廃止し、そのコマ数を用いた各学部2、3年次科目の富士吉田への移行案、新規科目の開講、英語を媒体とする医療面接の発展案等が検討されました。また、現在医学部は富士吉田の1年生に対して年間4冊の課題図書を提示し、読書感想文の提出を義務化しています。これを今後、全学部に拡大する方向で検討を進めることが確認されました。富士吉田教育部での各学部の教育を改めて精査することは、学部連携教育を実践している本学には大変重要です。また一方で、他のグループの作業内容については、全グループが一堂に会してオール昭和の活発な討議が行なわれ、ワークショップ全体として素晴らしいプロダクトが得られたのではないかと思います。最後に運営を支えていただいた学事部の皆様に感謝致します。

国際口腔免疫・微生物学会でポスター賞を受賞しました

大学院4年(地域連携歯科学専攻) 松井 庄平

8月14日、15日にマレーシアのマラヤ大学で開催された、International Conference on Oral Immunology & Oral microbiology にて "Analysis of intestinal dysbiosis in murine model of food allergy" という演題で発表し、ポスター発表部門で優勝することができました。この学会は北米、欧州、中東、アジア各国から、免疫学ならびに微生物学の研究者が広く集まる国際学会です。今回、このような国際学会にて1位という結果を残すことができ大変嬉しく思います。ポスター討論は非常に活気に溢れ、その中でアメリカの歯周病細菌研究の権威である、ルイビル大学の Richard J. Lamont 教授と口腔と全身疾患についてお話しする機会があり、我々歯科医師は、口腔を通じた全身の免疫機構、ひいては健康増進について、日々探究する使命があるのだという事を再認識しました。

地域連携歯科の丸岡靖史教授、口腔微生物学の桑田啓貴教授、直接ポスター発表のご指導頂いた片岡 嗣雄先生、英語のご指導頂いたマイケルマイヤース先生にこの場をお借りして心より御礼申し上げます。



先端歯学スクールで発表しました

大学院4年(口腔外科学専攻) 瀧本 玲子

8月23日、24日に東京医科歯科大学で先端歯学国際教育研究ネットワーク主催の先端歯学スクールに参加しました。本会は全国の歯科大学・歯学部から1名ずつ選抜された大学院生による口頭発表と、著名な研究者による教育講演で構成されており、大学院生に対する教育・研究指導を目的としています。口頭発表は、質疑応答を通じて様々な指摘や助言を頂きながら討論しあうもので、非常に緊張感のある会でした。参加している各大学院生は先端歯学の名の通りとてもレベルが高く、発表や討論を聞いているだけでもとても勉強になりました。また、自分の研究について発表することで、さらに思慮に思慮を重ね、新たな発見を得ることができました。発表や懇親会で、普段はお話する機会のあまりない他大学の先生方や大学院生と、貴重な研究の話や研究に関する苦労話をするなど意見交換を行うことができたことは、今後

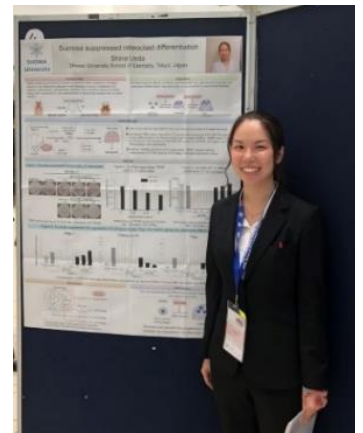
の研究を行う上で非常に良い刺激となりました。このような機会を与えてくださった上條竜太郎先生、代田達夫先生をはじめ多くの先生にこの場をお借りして感謝を申し上げます。



APDSA(アジア太平洋歯科学学生会議)で発表しました 歯学部4年 植田 紫衣生

8月6日から8月10日にマレーシアで開催されたAPDSA(アジア太平洋歯科学学生会議)に参加しました。Scientific Research Competitionにおけるポスター部門では、今年度取り組んだ「破骨細胞へのスクロースの影響」について発表しました。海外ではおろか大勢の人前で研究発表することは初めてだったので、今までになく緊張しましたが、大変貴重な経験をさせていただきました。また、今回参加したことで研究という分野での視野も広がり進路を考える際の選択肢の幅も広がりました。多くの刺激を受けた充実した5日間となりました。

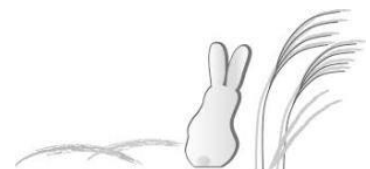
今回ご指導・ご協力いただいた口腔生化学教室の上條竜太郎先生、吉村健太郎先生、笹清人先生、今井裕子先生、英語での練習発表をしてくださった国際交流センターの橋本みゆき先生、マイケルマイヤース先生、平泉由香先生に心からお礼申し上げます。



行事予定

広報委員会 中村 雅典

- 10月5日・6日・7日:旗が岡祭
- 10月6日・7日:いぶき祭
- 10月16日:解剖慰霊祭
- 10月20日:父兄会秋季部会
- 10月23日:歯科医師臨床研修マッチング結果発表



全日本歯科学生総合体育大会が開催 されました 歯学部学生部長 上條 竜太郎

全日本歯科学生総合体育大会(オールデンタル)は日本の全ての歯学部が参加する歯学生のスポーツの祭典です。大半の競技は夏季に行われますが、ラグビーフットボール、スキー、アメリカンフットボールは冬季開催となり、夏の開催に先駆けて行われます。現在の開催種目数は23で、規約に従って、競技部門ごとに優勝校から順に得点を与え、夏期・冬期の合計点数で総合優勝校を決定します。

今年度のオールデンタルは通算して第50回となり、神奈川県川崎市の神奈川県立総合体育センターにて開催されました。総合優勝は愛知学院大学歯学部で、総合閉会式で優勝旗・優勝杯(ともに持ち回り)をもって表彰されました。本学歯学部からは14部門に参加し、総合成績は全29大学中第7位と、非常に健闘しました(昨年度8位)。特に、サッカー部と卓球部が総合優勝および女子団体優勝しました。今後も、本学学生がクラブ活動を通じて心身の健全な発達を獲得し、自己責任、克己心やフェアプレーの精神を培うこと、オールデンタルへの参加を通じて他大学の仲間や指導者と交流し、豊かな心や他人を思いやる心を育むことを期待します。

オールデンタルで優勝しました

歯学部4年 犬井 嵩人



歯学部サッカー部は、7月31日～8月5日にかけて神奈川県横須賀市で開催された第50回全日本歯科学生総合体育大会サッカー部門に参加し、昨年に続き、優勝という成績を残すことができました。

前年度優勝校というプレッシャーの中でこのような成績を収められたこと、また共に最後まで戦い抜いたチームを誇りに思います。応援して下さったOB、OGはじめ多くの皆様に心から感謝を申し上げます。

今大会に向けて私が準備したことは、チームをもう一度研究し、どのようにすれば1番噛み合うかを考えることでした。私たちのチームは良くも悪くも個性が強いメンバーが揃い、プレー中にお互いがぶつかり合うことも少なくありませんでした。それをどうすれば勝つためのエネルギーに変えていけるのかを模索し、チームの舵をどう取るかを重点的に考えました。

真夏の暑さの中、連戦という苦しい条件でしたが、お互いが鼓舞し合い、毎試合ごとに成長していくことができ、何より大会を楽しんでいたことが大きな勝因であったと思います。

来年度は新チームとなりますが、三連覇に向けてから精進していきたいと思っておりますので、今後とも変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い申し上げます。

オールデンタルで優勝しました

歯学部4年 小田原 大空

歯学部卓球部は8月7日～9日に、宮城県仙台市の青葉体育館で行われた第50回オールデンタルで、総合優勝をすることができました。また、女子団体戦は参加校16校中優勝、女子シングルス・ダブルスともに優勝、男子ダブルス第3位など、好成績を残すことができました。

大会直前の夏合宿では、各自が課題を持って練習に取り組み、他の学部の仲間と励み合い、モチベーションを高めて練習を頑張りました。そして、合宿や日ごろの練習の成果や誰一人として諦めずにプレーをした結果、このような素晴らしい成績につながりました。

今大会OB、OGの先生方からご指導や応援のお言葉を頂き、素晴らしい結果と多くの感動を共有することができました。これからも現状に満足せず、今回以上の結果を残せるよう努めて参りますので、ご支援・ご声援のほどよろしくお願い致します。応援ありがとうございました。



編集後記

歯周病学講座 滝口 尚

吹き抜ける風や虫の声に秋の訪れを感じるようになりました。今年の夏は、異常な酷暑で体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。秋といえば、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋と、秋にはいろいろありますが、皆様の秋は何でしょう？本号でも学生の学術研究発表やスポーツで活躍する記事が多く寄せられました。ご寄稿下さいました皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。